

<b>会 議 録</b>	
<b>会 議 名</b>	市貝町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会
<b>日 時</b>	令和2年10月29日（木）10:00～12:00
<b>場 所</b>	市貝町役場1階多目的ホール
<b>出 席 者</b>	委員 8/10名 町事務局 3名 町各行政担当者
<b>会議次第</b>	1 開会 2 あいさつ 3 議題 （1）市貝町まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について （2）地方創生加速化交付金及び地方創生推進交付金の実施事業について 4 質疑応答 5 閉会
<b>会 議 内 容</b>	
<p>1 開会</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>3 議題（進行：委員長）</p> <p>（1）市貝町まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について （資料：令和2年度市貝町まち・ひと・しごと創生総合戦略施策一覧を説明）</p> <p>（2）地方創生推進交付金の実施事業について （資料：令和2年度地方創生推進交付金事業検証結果を説明）</p>	
<b>委員長</b>	今、2つの説明があったが、委員の皆様のご意見を伺いたい。ぜひ聞いてみたいという点があったらお伝えいただきたい。
<b>委員</b>	2-1 サシバのつがい数の実績値が5年間なしで、5年間はやってないとのことか？
<b>事務局</b>	今年やる予定である。町全域で調査をやっており、今年度の事業なので来年度公表したいと思っている。
<b>委員</b>	検証委員会で皆さまの知恵を伺いたいと議会で話し合われたこともあった。検証シートの2枚目の耕作放棄地の面積は減らす目標値となっている。その中でおおむね順調ではなく努力が必要となる箇所があり、変更してもらいたい。目標達成のアイデアが欲しいものがたくさんある。K P I 値は重要施策として出している。目標と現実の違いがある。先日町政懇談会の場にて自治会を通して集める金額があり、赤字になっている話もあった。自治会の加入率の問題にも直結している。
<b>委員長</b>	K P I の数値から重要な課題が見えており知恵をいただきたいと思う。
<b>委員</b>	3点ある。 ① 実績の推移は重要である。順調と記載があっても減っているところもある。検証が必要と感じる。 ② 目標値設定の意味あいの検討も必要と感じる。 ③ 連携して取り組みを行っていったほうが良いのではないかと思うところがある。

委員長	地方創成推進交付金の中でも何かあればご意見いただきたい。
委員	活動に関わっている『キンブナ』について、今年の春イベントは中止となってしまった。放流事業はできたが、加工する事業については行き詰っている。『浮島プロジェクト』もある。水の浄化や生態系保全を行っているが、浮島の下にキンブナを放流して釣り堀体験を行ったら好評であった。人に関心をもってもらうのは難しいが、コツコツと努力している。
委員長	コロナの影響も出てきているように思われる。未達成が地方創成では多いようである
事務局	目標値を高く設定している面もある。
委員長	第1期と第2期のK P Iの内容に変わっている部分もある。
委員	第2期の総合戦略はつくり上げてきた。作ってきた中で第1期からつづくK P I値や変更になったところもあった。第2期の総合戦略をつくるなかで検討し成果がみえるような内容に変更してきた。
委員長	休憩の後全担当係長に来ていただくとの事なので、質疑応答を直接できたら良い。
委員長	委員の皆様から沢山の意見をいただいた、これからの時間は委員と担当の方とやりとりができたらと思う。
委員	1-1 農業の活性化と担い手の確保には大きな課題がある。営農組合、個人経営であっても、担い手の確保の問題は大きい。協力体制をとりつつ運営していくのか、いろいろ検討の課題はある。より効率的に連携していける指導が必要となると考えている。町内にこれらに準じる組織を増やして農業の効率化を図ることが必要と思われる。今後どのようにお考えなのか？
農林課	北部地区の農業の効率化は今後町全体の農地を守っていく上で必要なことである。その施策としては、北部地区の営農組合の合併もしくは分散化してしまっている農地の集約化を進めていく必要があると考えている。
委員	K P Iで数値は見えてくるが、中身は分かりにくい。若い人に来てもらい、就農または定住してもらう等のサポート体制ができていないと思われる。来てもらっても、ほかの場所へ移ってしまうことも考えられる。地域の世話人のような人がいないと定着しにくいのではないかと体制を整え、成果に繋げられるようにしていただきたい。結婚相談員の数より、どのように進めていくのが重要である。具体的な内容を聞いてみたい。

農林課	<p>新規就農者の定着課題についてだが、就農はしたが技術が足りなく収入が得られなく、離農していく人もおり、呼ぶことも重要だが、定着させていく課題はあると感じている。今後5年間の農業を考えていく市貝町サシバの里農業ルネサンス計画というのを立ており、地域の農業者の方に委員として入っていただいている。その中でも若い人が来ないと地域が活性しないという課題がでた。新規就農の為の施策というものを地域おこし協力隊や、様々な先進事例があると思うので、農業の施策につなげていきたい。</p>
生涯学習課	<p>結婚相談員について、なり手が減少している。規約の改定を行い、相談員になりやすくしたり、広報誌に掲載する等、周知しているところである。具体的な取り組みとして、令和元年度は首都圏の女性を招いてイベントを開催し、カップリング率も半数を超えたが、結婚まで結びついたとは聞いていなく、今後の課題である。県において、結婚支援センターを設置しており、マッチングシステムを利用した婚活となっている。今後周知も行い事業を進めていきたいと考えている。</p>
委員	<p>ひとつの課で取り組みを行うのではなく、連携して行うべきと考える。町全体で取り組み、連携的に町民の方も交え委員会を作るべきと考えている。</p>
委員	<p>就農したのにも関わらず、離農してしまうことは成果につながらない。みんなで守っていかないと難しい。農業をやろうとした人を育て、生活基盤をつくる体制を作らなければならない。新規就農者を逃がさず、新しい作物を作っていくようにしないと新規就農者の定着は難しい。</p>
委員	<p>市貝町の魅力について 『市貝ブランド認定』商品というところで達成はしているようである。市貝町のファンを作るのは難しいと思っている。ブランド化は重要と感じている。現時点の具体的なブランドの商品について、また今後の展開について教えていただきたい。</p>
企画振興課	<p>市貝ブランド事業について、市貝のブランドとして適切な商品を開発した場合、9/10最大40万を上限として補助をしている。累計で15件となっている。食物類がほとんどであり、芝ざくらグッズもある。作って補助をもらったのにも関わらず休止しているものや、発展性のないものも数字に含まれている。補助を出すからには、継続性や販路開拓の努力も見据え、認定していく必要がある。販路がないものは多く見受けられる。 ふるさと納税の返礼品や、イベント等への出品も要件としてふまえたい。</p>
委員	<p>今のは市貝ブランドであったが、『サシバの里ブランド』もある。継承事業として『特別栽培米サシバのふるさと』もある。『市貝ブランド』と『サシバの里ブランド』とはどう違うのか？今後の方針や内容について伺いたい。</p>

農林課	『サシバの里ブランド』とは環境に配慮した農作物を認定するブランドになっている金と緑があり、金は有機のJAS法を取得したもの、特別栽培認証を受けたもの。緑はエコ農業とちぎ実践宣言している者が、完熟堆肥を使用して生産する農作物としている。ブランドという名前と環境にやさしい品目というものが消費者の方にもうまく理解されない。有機農作物になると、多少の傷ものがあったり、形が悪かったりする。ブランドなのにと言われたこともあり、分かりやすく説明していく必要があり、見直しを検討している。『サシバのふるさと』は地域の農家が生産した農産物の農薬や化学肥料の使用量を確認させていただき、町で特別栽培認定をしていくのはどうかと考えている。
委員	今年からか？
農林課	米のほうで、先行させていただき令和元年から販売している形である。
委員	子育て支援等メール配信事業登録者数について、事業が未実施だった理由、それにかかわる事業を行っていたのか伺いたい。こども110番の家指定数について、子どもの安全を守るというのがある。目標値は年々増えている形であるが、想定しているのは通学以外に、いじめや虐待の問題も踏まえているのか、教えていただきたい。
健康福祉課	予定では未就学児の保護者を対象に通知の配信を考えていたが、携帯のアプリも充実しており、出産数も多くないためシステムを導入しなくても対応がしっかり行えてきた。導入には費用がかかり見送るが、導入している近隣市に現状を聞いたところ、利用しているのは対象の半数しかいないという事もあり事業を見送っている。
生涯学習課	こども110番の家の主な目的は、通学時や外出時の際の見守りということで、地域の方に協力をお願いしており、虐待やいじめなどに対する見守り依頼は行ってはいない。ゲリラ豪雨など急変する天候の時の利用も想定している。昨年度の利用実績はなかった。
委員	自治会加入率について、目標値はあがっているが実績は下がっている。子育てが終わると自治会を脱退することが多いようだ。高齢者が増えてくる中、加入率を高めるための方策をしているのか伺いたい。
総務課	自治会の加入率について、当初見込んだ目標値は上がっている。しかし、現状は町の世帯数が増加しているにも関わらず、自治会の解散や脱退される方がおり低下してしまっている。子育てが終了した世代が多い集合住宅の多い自治会で加入率が一気に減ったことから、憶測ではあるが、子どもの会が終わると目的がなくなるというところで、脱退される方が多いのではないかと分析させていただいた。もう少し分析するため調査すべきだった。加入率を高める方策として、1人暮らしの方や75歳以上の方には自治会費の集金を免除している自治会もあると聞いている。そういった例を自治会運用マニュアルに掲載させていただき、加入率の減少をとどめるようにしていきたい

<p><b>委員</b></p> <p><b>農林課</b></p> <p><b>企画振興課</b></p> <p><b>委員長</b></p>	<p>いと考えている。昨年度、役員を集めてマニュアルを作ってきたがコロナのこともあり今年度について加入促進の取り組みが厳しい状況であったことと、交付金の交付の仕方が例年と変わったため、配布できていない現状であった。今後もアンケートをとっていき、事例の紹介を行っていきたいと考えている。</p> <p>連携の問題についてだが、『サシバの里ブランド』などは作ることにはできるが問題はどうか販売していくかになる。今後の販売戦略をききたい。</p> <p>サシバのふるさと特別栽培の農産物について述べさせていただく。今まで認定しているのは、お米だけであり、道の駅で取り扱っている。今後はふるさと納税の返礼品に使ったり、地域の子どもたちが集まる場所に提供して周知を図りたいと思っている。</p> <p>市貝ブランドについて、審査会を行うが、美味しいものいいものだから認定するのではなく販売戦略が適切である場合に認定をしていきたいと考えている。</p> <p>今回をもって第1期の検証が全て終わる。第2期も進行している。職員の話を知ると数値の中に想いが詰まっている。地域のくらし市民の目線スタンスで行っていきたい</p>
<p>5 閉会</p> <p style="text-align: right;">以上、会議の概要について記録いたします。</p>	